

キャリア支援委員会の活動と使命について

日本消化器病学会は 2011 年から「女性消化器医師支援委員会」を設置し、総会・大会でのシンポジウム開催や再研修システム等のアンケート調査、関東支部でのハンズオンセミナーなどの女性医師支援活動を開始しました。

2015 年には、その活動を更に拡げることを目指し、下瀬川前理事長の元、女性医師から次世代の若手消化器医師まで支援の輪を広げ、「キャリア支援委員会」として再出発を致しました。女性医師や若手医師が、消化器病の臨床・研究・教育のそれぞれの分野で活躍し、消化器病学の発展と社会に貢献できる様に、多様なキャリア支援を行なうことを使命として掲げています。

その到達目標としては、明日の消化器病学を担う次世代の育成、消化器病プロフェッショナルを目指せるシステムの構築、リーダーとなる医師の育成と機会提供、女性医師のライフイベント支援とキャリア継続支援、学会活動、日常診療に女性医師を積極的登用し「男女共同参画」を実現することなどを挙げております。現在、システムの再構成に時間を要している我が国の専門医制度の行方を注意深く見守り、国民から信頼される次世代の消化器病専門医を育成して行きたいと考えています。

男女共同参画の問題は、日本消化器病学会として最も重要な課題のひとつです。2019 年 3 月現在、消化器病学会には約 35,000 人の会員がおり、その 14.2%が女性会員です。会員の中で、学会活動の中心的役割を担っているのが評議員ですが、消化器病学会においては、支部評議員中に占める女性の割合は 7.9%、学会評議員中では 3.5%となっています。これを他の内科系学会と比較してみると、日本内科学会では評議員中の女性比率は 8.0%、日本肝臓学会でも同様に 8.0%となっています。本学会では地方支部での女性評議員比率を上昇させ、ボトムアップによって学会活動を活性化させようと、これまで取り組んで参りました。その成果によって支部評議員中の女性比率は、ほぼ 8%まで上昇しました。現在、支部評議員の中で、特に活動性の高い会員に学会評議員への就任を支援しています。これは、女性会員だけに限らず、若手会員に対する支援として行なっていることです。また、臨床活動だけでなく、消化器病学の研究活動に関する若手医師、女性医師への支援も強化しています。海外留学支援制度、臨床研究助成制度は既に始まっていますし、女性研究者への支援も計画しております。本学会に所属する会員、医師の更なる成長と発展に貢献できる様に、学会として努力を続けて参ります。よろしくご協力をお願い申し上げます。

理事長 小池和彦